

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2020年 第6週（2月3日～2月9日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 減少が続くもまだ注意が必要」

第6週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,859例であり、前週比13.7%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、水痘、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.79、2.75、0.46、0.36、0.35である。

感染性胃腸炎は前週比17%減の943例で、南河内7.75、大阪市北部6.36、北河内6.19、泉州4.75、堺市4.26、豊能4.23であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比13%減の542例で、堺市4.16、北河内3.70、南河内3.63、泉州3.50、大阪市西部2.89である。

咽頭結膜熱は前週比12%増の91例で、泉州0.85、中河内0.75、北河内0.59であった。

水痘は前週比13%増の70例で、大阪市北部1.21、大阪市東部0.53、中河内・泉州共に0.45である。

RSウイルス感染症は前週比30%減の68例で、南河内0.63、大阪市北部0.57、中河内0.55であった。

インフルエンザは33%減の3,413例で、定点あたり報告数は11.38であった。中河内17.23、南河内14.42、大阪市北部12.50、堺市12.14、泉州11.61であった。

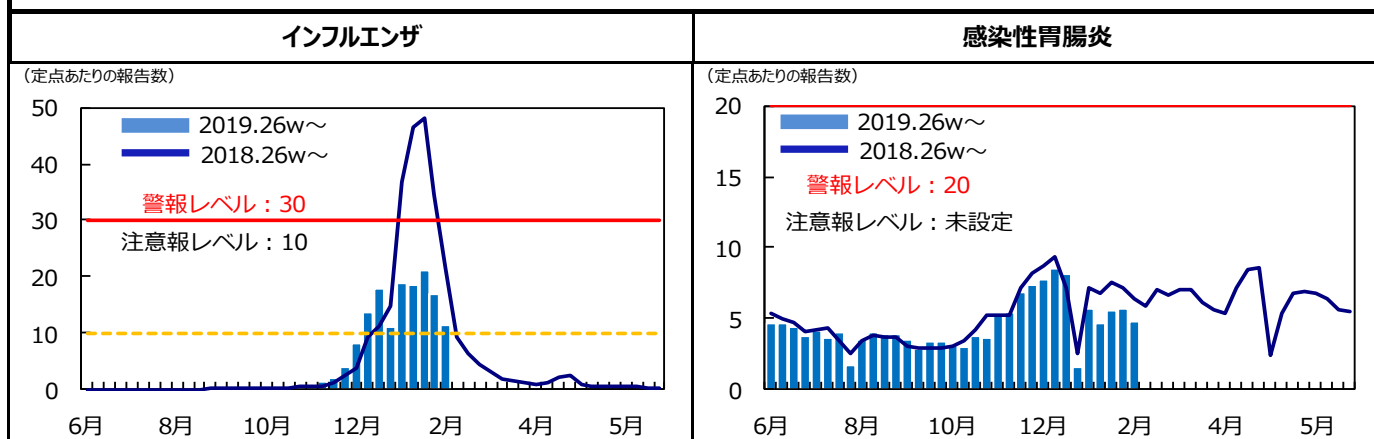


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2020年 第6週2月3日～2月9日）

第6週の順位	第5週の順位	感染症	2020年 第6週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2019年 第6週の 定点あたり 報告数	2020年第6週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.79	17%減	6.38	1歳_15%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.75	13%減	2.30	4歳_16%
3	4	咽頭結膜熱	0.46	12%増	0.43	1歳_24%
4	5	水痘	0.36	13%増	0.37	6歳_23%
5	3	RSウイルス感染症	0.35	30%減	0.68	1歳_38%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	11.38	33%減	21.04	10-14歳_22%

第6週のコメント

～ デング熱 ～ 海外に渡航される方は、蚊に刺されないように、服装に注意し、虫よけ剤を使うなどしましょう

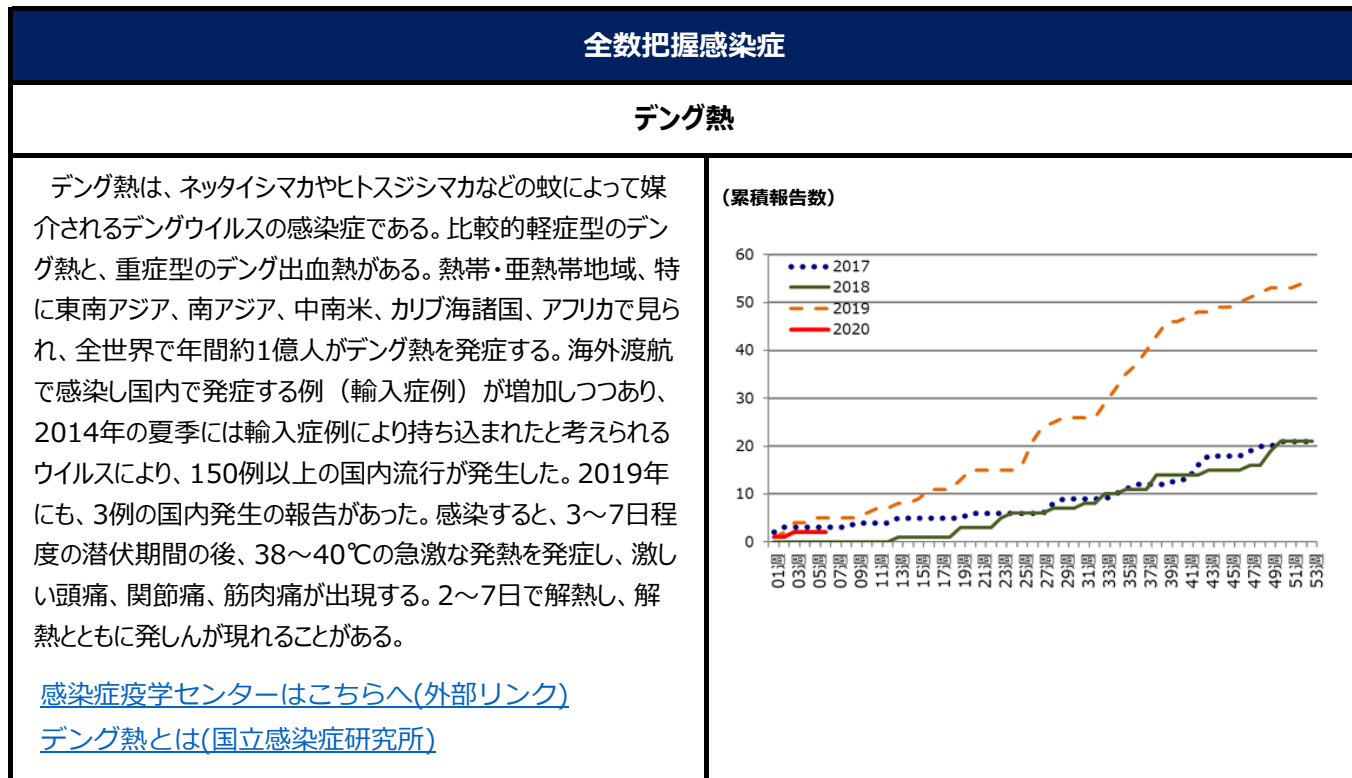


表 2. 大阪府全数報告数（2020年 第6週2月3日～2月9日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告 をご覧ください。）
 新型コロナウイルス感染症は、施行された2月1日以降の集計です。

	疾患名 〔 〕内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊	三	北	中	南	堺	泉	大	府内 報告数 累積
			能	島	河内	河内	河内	市	州	阪市	
4 類感染症	E 型肝炎	1					1				2
	デング熱（I 型）	1								1	3
	ブルセラ症	1								1	1
	レジオネラ症（肺炎型）	1								1	14
5 類感染症	急性脳炎	1							1		11
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2								2	11
	侵襲性肺炎球菌感染症	1			1						26
	梅毒	8	1	1					1	5	99
	百日咳	2								2	28
結核 (2019年12月分)	結核 新登録患者数：145名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 52名) (府内累積報告数 1,636名、内 肺・喀痰塗抹陽性 638名)										

(2020年2月11日 集計分)